

第 42 回 INS 地盤と防災研究会・第 76 回岩手山火山防災検討会 実施報告

テーマ「御嶽山噴火災害から、火山防災の在り方を考える」

日時：平成 30 年 11 月 24 日（土）13 時 30 分から 17 時 30 分

場所：岩手大学理工学部テクノホール

参加者：およそ 100 名

現在、岩手県内の活火山（岩手山・秋田駒ヶ岳・栗駒山）では、活火山法による「火山防災協議会」が立ち上げられ、気象庁の噴火警戒レベルに基づいた避難計画の策定が進められています。しかし、御嶽山の噴火では 63 名の登山者が犠牲になり、事前のレベル上げを行わなかったことや、故障した観測機器を整備しなかったことなどの責任を問う訴訟が起こされています。ご遺族の疑問、訴えなど直接伺うことも今後の火山防災の在り方を検討する上で有意義と考え、今回の研究会では御嶽山被災者家族の会「やまびこの会」代表のシャーロック英子さんを東京からお招きすることとしました。シャーロックさんの講演では義弟が犠牲になったこと、その後の行政の災害対応の不備など噴火災害直後から現在に至るまでの詳細をお話ししていただきました。意見交換会では、いくら自由な議論の場である INS でも所属機関の立場を考えると発言しにくいテーマでありながら、何が問題であるのか活発な議論が交わされました。少なくとも今回参加された方の多くは、やはり現状のままではいけないという危機意識をもっており、今後の防災対応に生かされることを期待いたします。

講演会終了後、今年度内閣総理大臣表彰(防災功労)を受賞した土井宣夫氏のお祝いも兼ねた懇親会も大盛況に終わりました。

（文責：山本英和）



写真 齋藤先生による問題提起（左）とシャーロック英子さんによる講演（右）



写真 土井先生の防災功労者内閣総理大臣表彰のお祝いをおかけた懇親会